経営一転語 98　企業は社長次第である

　社長は、社員に対しては、一生懸命、努力している限り、寛大にならなくてはいけません。

　会社の業績は、社長の考え方と行動によって、決まるのであって、社員の考え方と行動によって決まるのではないのです。

　あくまでも、社員の自由は、社長の考え方と行動の「枠内での自由」であって、社員に会社の命運を決める重大な決定など出来ないものなのです。

　もし出来るようであれば、会社を飛び出し、他の会社の社長をしています。

　だから、「企業は人なり」という言葉の解釈は、社長としては、「企業は社長次第なのだ」と解釈するのが正しいのです。

　社長は、部下の能力を向上させるための教育をしようとする前に、まず、自らが「優れた経営・正しい経営」をすること誓い、これを実行しようとしなければなりません。

　そうであってこそ、磁石に引き寄せられるように、自然に人材が集まり、人材が育つのです。これが、究極の人材教育です。

　優れた経営者は常に「うちの社員はよくやってくれています。」と人に語り、そうでない経営者ほど、自社の社員の無能ぶりを人にこぼします。

　会社の業績が上がらないのは、社員の無能のせいではなく、やはり「自らの責任である」と認識することが、業績向上のスタート地点に初めて立ったということでしょう。